



最後のカレンダー

ついこの間まで生徒たちに「暑い、暑い!!」と言われてエアコンもフル稼働でした。送られてくる電気代の明細書金額に冷や汗をかくこともありました。それが急に朝晩の冷え込みが厳しくなり思わず背中を丸めていると、小学生から「塾長、背中をピンと伸ばして!」と号令をかけられてしまいました。気がつけば霜月なのでした。

さて、職員室の壁にかけてある JVC 国際ボランティアセンターのカレンダーに気づいている人はいるでしょうか。世界の子どもたちの写真が月ごとに載っているととても素敵なもので、その収益の一部がそれら子どもたちの暮らしを守る力となっています。11月はミャンマーに住むロヒンギャの子どもたちのあふれる笑顔です。先日、楽しみにしていた2023年のカレンダーが届いたのですが、残念なお知らせが入っていました。なんとカレンダー事業の終了に伴い、これが最後のカレンダーになるということです。昨今の紙のカレンダーの売れ行きの鈍化などがその理由とのこと。もちろん JVC の活動はこれからも続いていく予定で、ハガキや商品券、未使用切手などの物品支援への協力も案内されていました。

紙のカレンダーは確かに需要が減ってきているかもしれませんが。私も予定が決まったことはその都度スマホのカレンダーに入力しています。PC やタブレットとも連携できて便利です。でもやっぱり「今日は何曜日? 今月はあと何日ある?」などをふと確かめたい時に目を向けるのは壁のカレンダーです。中期的なスケジュールを計画する時もデジタルだと見通しが立てにくいように感じます。それに対して紙のカレンダーは目の前だけでない判断をするための道具として有効です。だから毎年受験生には、“入試まであと120日受験勉強スケジュール表”を渡しています。人は1日でできる量を過大評価し、1年でできる量を過小評価しがちだからです。

でも見通しを立てて計画を練ることが本当に必要なのは、まだ先のことと思って目の前のことだけを考えてしまう中1・中2、高1・高2の皆さんなのではないでしょうか。